

◎ 解答は解答用紙に書くこと。(氏名は書かないこと)

字数制限のあるものは、句読点などの記号も字数を含む。

一 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

受験番号

現代は、科学・技術に立脚した文明社会と言えるでしょう。科学・技術の力によって発明され開発されたさまざまな機械や装置や道具や製品によって、社会のインフラストラクチャー（略してインフラ。工場・道路・鉄道などの産業基盤や学校・病院・公園などの生活関連の公共施設）が整備され、物資の生産や輸送が効率的に行われ、安定した日常生活が営めるからです。私たちは豊かで便利な生活をおくり、病気になっても治療を受けられ、健康で文化的な生活が楽しめることを当然だと思っていられるのも、科学・技術の恩恵^①によっているといっても過言ではありません。科学・技術の発展こそが現代社会を支えているのです。

(中略)

歴史的に見ると、人類が二本足で立ち上がってから過酷な自然環境の中で生き残ってきた理由として、科学・技術が背後で支えてきたためと言えるのではないのでしょうか。(A)石器や土器の製作から始まって、火の使用や植物の採集を行い、農業を開始して食糧生産の革命を引き起こすという段階までは、明確にこれが科学・技術だと意識していたわけではありません。(B)、これらの営みは科学・技術の原初的な試みであったことは確かです。(中略)

世界各地に残る神話や伝説の数々には、荒唐無稽なものが多くありますが、この世界の成り立ちや始まりについて想像して創り上げた寓話^{ぐうわ}であるとともに、自然や周辺の動植物の変化を観察し書き留めて独特の解釈を加えた記録でもあり、科学の萌芽^{ぼうが}と言えなくもありません。人類社会の初期の進化には、このような科学・技術の初歩的な援用があったのです。(中略)

学校では科学のことを「理科」と呼んでいるのですが、科学の基礎知識を学ぶ理科は、小中高においては必須の科目になっています。科学がもたらしてくれる恩恵を受け、さらに豊かに実らせるためには、誰もが科学の基礎知識を正しく持つ必要があると考えられてきたためです。科学は基礎的な知識の上に、さまざまな応用分野が幅広く展開していく学問ですから、しっかり基礎を学んでおく必要があります。直接役に立たないように見える基本的な知識であっても、おろそかにせず、身につけることが求められるのです。科学・技術文明の時代を生きるために、誰もが学校で理科を学ぶことが現代人の常識^②と言えるでしょう。

それと同時に、心に留めておかねばならないことは、科学・技術が原因となった事故や事件が多く起こるようになり、必ずしも科学・技術が善とばかり言えない状況が生じていることです。つまり、科学・技術は万全ではなく、すべて良いことばかりをもたらしてくれていくわけではないのです。とはいえ、私たちは科学・技術と無縁の生活を送ることができませんから、私たちは科学・技術のマイナスの面も含めて、その中身をよく知っておく必要があります。科学・技術は絶対的に正しいとか、科学・技術はまったく信用できないとかの極端な立場ではなく、良い面と悪い面をしっかりと区分けする目を持ち、良い面を伸ばし、悪い面を抑えていくようにする、そんな態度が求められているのです。つまり、科学・技術は万能ではなく、限界があることを知ること、科学・技術を学ぶ重要な目標と言えるでしょう。

^③現代の科学・技術の限界が見えた例として、2011年3月11日の東日本大震災が挙げられると思います。まず、大地震や大津波の発生を正確に予測できない科学の弱点が露^あわになりました。私たちは、科学がすべての自然現象を説明しているわけではないことを知ったのです。さらに、引き続いて起こった福島第一原子力発電所（原発）のメルトダウン事故は、現代技術の粹^{もろ}であるはずの原発が意外に脆いものであることを見せつけました。現代の科学と技術が万全ではないことが明らかになったのです。多くの人々は、「原発は安全」との宣伝をすっかり信じ込んでいたのですが、それがまさに「神話」^④でしかなかったことを思い知らされることになりました。その結果、「私たちは安全神話に騙^{だま}されていた」と言うのですが、それは事実としても、原発を推進してきた政府や電力会社や原子力の専門家を非難するだけでいいのでしょうか。

というのは、言論・出版の自由がある日本においては、原発が危険な施設であって脱原発の道を歩むべきだと主張する運動が存在し、多くの本が出版され、インターネットでも情報を得ることができました。勉強しようと思えば、いつでも原発の危険性を知ることができたはずで、ところが、多くの人たちはそれらの警告には耳を貸さず、原発の「安全神話」のみを信じ込んでいたのです。そして事故が起こった後になって、「原発がそんな危険なものとは知らなかった」と言っているわけです。果たしてそれでいいのでしょうか。原発について知ろうとしないまま、ただ騙^{だま}されていたと言う自分も悪かったと反省する必要があるのではないのでしょうか。

人々のこのようなあり方に、現代社会の大きな落^おとし穴があると言えそうです。私たちは科学・技術の恩恵に慣れ過ぎて、科学・技術が必然的に持っている負の側面を考えることがなくなっているということです。その結果、何ら疑うことなく一方的な宣伝に乗せられ、簡単に騙^{だま}されてしまったわけです。二度と騙^{だま}されないために、私たちは科学・技術の内実を知っておかねばならないと言えるのではないのでしょうか。^⑦

といっても実際のところは、あまりに勉強すべきことがあり過ぎて、すべての科学・技術の詳しい内容まで知ることができないのが実情です。しかし、物事を見たときに、何が問題であり、どこを押さえておけばよいか、どう対応すべきか、について判断する観点を身につけることはできるでしょう。科学・技術の考え方・進め方には一般的な法則というものがあり、それを体得すれば応用が可能になるからです。そして、日頃からその観点でものを見ることを心がけていればいいわけです。本書で、そのためのヒントが得られればと思っています。

（C）、科学・技術の産物だけでなく、世の中に存在するすべての物事には、プラスとマイナス、正と負、善と悪、長所と短所、恩恵と弊害という二面性があります。光があれば必ず影が生じるように、100%すべてプラスということはあり得ず、プラスには必ずマイナスの要素が付随しているのです。特に、科学・技術が世の中のあらゆる側面に入り込むようになっている現代社会においては、科学・技術に起因する負の側面の影響が大きくなり、場合によっては人の命に関わる事件になりかねません。それだけに、科学・技術が持つ二面性をよく理解し、プラス面は活かし、マイナス面は小さくするよう努める、そんな姿勢が科学・技術文明の時代に生きる私たちに求められていると言えるでしょう。

例えば、十分な副作用の検査を行わないまま新薬が市販され、病気が治ると信じて飲んだ人々が、かえって重篤な病気になるという事件がこれまで何度も起こりました。「薬害」です。（中略）

これは一例ですが、科学・技術が原因となる事件はいくらでも起こる可能性があるのですから、私たちは日頃から科学・技術に慣れ親しんで、「知らなかった」とか「騙された」と言わないよう、科学的な見方・考え方を鍛えておくことが大切です。また、自分に関係がないときでも、科学・技術に関わる事件や事故が起こった場合に、実際に何が間違っていたか、その原因がどこにあるか、誰に責任があるか、二度と起こさないためにはどうすべきか、などを考えるクセを身につけることが大切です。そうすることは、社会に起こるさまざまな事柄について、その原因と結果の結びつき（これを「因果関係」と言います）を科学的に考えるための訓練になるからです。私たちは、このようにして曇りのない目で社会に生起するさまざまな事柄を見、その因果関係を見通して正邪を判断する力を養っていくことができるのです。

なぜ、わざわざ科学的な考え方の重要性を強調するか、には理由があります。私たちは民主主義の時代に生きており、誰もが自由に意見を述べられ、それが尊重される建前になっていますが、必ずしもそのように社会が機能しなくなっている側面が見受けられるからです。私は「お任せ民主主義」と呼んでいるのですが、むしろかしいことは上の人や専門家に任せ、自分はそれらの人たちが言うことに従っていれば間違いない、という姿勢が現代人に多く見受けられるようになっていくということです。自分で考え判断する姿勢が失われていると言えるのではないのでしょうか。

しかし、それでは一人一人の意志や考え方や疑問点が自由に表明されることがなくなり、（一）する人間ばかりとなって、最後には独裁的な社会になりかねません。生き生きとした知的で豊かな社会になるためには、誰もがしっかりと自分の意見を表明し、他の人の言うことも聞き、互いに議論することを通して理解し合い、よりよい方向を見いだしていくというふうにならねばなりません。それが人間を互いに大事にし合う真の民主主義社会なのです。そのような社会にするためには、誰もが独立した人格の持ち主として尊重し合い、科学的に考えてお互いの意見を率直に出し合う、そんな健全な人間関係を作っていくことが大切です。その意味でも、科学的なものの見方・考え方は欠かせないのです。

（池内 了『なぜ科学を学ぶのか』より）

問一、（A）（C）に当てはまる語を、次のア～オの中からそれぞれ一つ選び記号で答えなさい。

ア さて イ しかし ウ むろん エ だから オ つまり

問二、傍線部①「科学・技術の恩恵」とあるが、科学・技術の発展が現代社会に与えた恩恵として当てはまるものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 公共施設の整備 イ 伝統的構造物の建設 ウ すべての感染症の根絶 エ 神話や伝説の創造

問三、傍線部②「誰もが学校で理科を学ぶことが現代人の常識」とあるが、その理由として当てはまるものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 科学の基礎知識を学ぶことで、科学技術が原因となった事故や事件を防ぐことが可能になるから。

イ 科学の基礎知識を学ぶことは、現代社会において人々の生活をさらに豊かにするのに必要だから。

ウ 科学の基礎知識を学ぶことは、科学の万能性を理解し社会の進歩についていくのに必要だから。

エ 科学の基礎知識を学ぶことで、限りある資源の活用方法について考えることが可能になるから。

問四、傍線部③「現代の科学・技術の限界が見えた例として、2011年3月11日の東日本大震災が挙げられる」とあるが、東日本大震災で明らかになった科学・技術の限界として当てはまるものを次のア～オの中から二つ選び記号で答えなさい。

ア 大地震や大津波などの災害の発生を正確に予測できないこと。 イ 使用済み核燃料の管理や放射性廃棄物の処分のコストが高いこと。

ウ 地震に関するハザードマップが周知徹底されていないこと。 エ フェイクニュースの拡散を防げないこと。

オ 原子力発電所が意外と脆いものであること。

問五、傍線部④「それ」とは何を指すか、本文中から十一字で抜き出なさい。

問六、傍線部⑤「大きな落とし穴」とはどういうことか。当てはまるものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 科学・技術の恩恵に慣れ過ぎて、その負の側面を考えることがなくなっていること。

イ 科学・技術の進歩により、すべての自然現象を説明できると誤解していること。

ウ 科学・技術が持つプラスの側面が、そのままマイナス面になってしまうこと。

エ 科学・技術が進歩し過ぎて、基本的な知識を学ぶだけでは不十分であること。

問七、傍線部⑥「必然」の対義語を漢字で答えなさい。

問八、傍線部⑦「科学・技術の内実を知っておかねばならない」とあるが、どのようなことを知っておかなければならないと筆者は述べているのか。本文中の言葉を用いて二つ答えなさい。

問九、傍線部⑧「科学的な見方・考え方を鍛えておく」とあるが、そうすることで何を身につけることができるか。傍線部⑧より前の範囲から抜き出し、始めと終わりの五字を答えなさい。

問十、傍線部⑨「お任せ民主主義」と筆者が呼んでいる姿勢として当てはまるものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 科学・技術の恩恵を受け入れつつ、その負の側面も理解する姿勢。 イ 科学・技術の限界を認識し、常に疑問を持つて考える姿勢。
ウ 自分の意見をしっかりと表明し、他人の意見も尊重する姿勢。 エ 自分で考え判断することをせず、専門家や上の人に任せる姿勢。

問十一、(一)に入る適当な四字熟語を次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 悪戦苦闘 イ 取捨選択 ウ 付和雷同 エ 切磋琢磨

二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「私、最近、ある男性と別れたんです」

風間先生に電話でそれを打ちあげたのは、風間歯科医院を訪ねた翌々日だった。「二人三脚でがんばりましょう」の一語に甘えてのことだが、もしも私の思う容疑者が代替ペインの犯人であるならば、一刻も早く退治してしまいたいという焦りもあった。

奥歯の痛みは依然耐えがたく、おかゆやスープ以外は口にできないほどで、夜もともに眠れない。心から生じた痛みがめぐりめぐって尚もセイ神を消耗させていた。

「すみません。こんなプライベートな話を歯医者さんにするなんて、どうかしてますよね」

「いえいえ、歯にしても心にしても、痛みとは総じてプライベートなものですよ」

風間先生は慣れた様子だった。

「よろしければ聞かせてください。その男性との別れに関して、加原さんの中には消化できていない何かがあるのでしょうか」

「消化……できてないですね。あまりに突然でしたし、それに……」

そう、私にとってそれはクラッシュ事故のようなものだった。安全運転を心がけていたつもりが、突如、横から突っこんできた車に当てられ、こっぴどにじんにされた。

「その彼とはずっと安定した関係だったんです。友達^{トモ}の紹介で二年前に知りあって、とくに波乱もなく続いてきました。最近私も将来のことを考えはじめてましたし、外出の自粛が始まったところ、この際だから一緒に暮らすのはどうかって彼に持ちかけてみたんです」

「ああ。そういうカップル、わりといるみたいですね」

「はい、彼にも言われました。みんな同じことを考えるんだな、って。私、彼も同棲^{どうせい}を考えていたんだなって、ホッとしたんです。でも、違いました。彼は私と二股をかけていた女性からも同棲を持ちかけられて、その子と暮らすほうを選んだんです」

「え」

一瞬、言葉につまりながらも、風間先生は白衣の人間らしい冷静さを失わなかった。

②「それは……大変なときに、大変な目に遭われましたね。消化できなくて当然です。つまり、加原さんの中には悲しみだとか、怒りだとか、さまざまな感情が今も残っているわけですね」

「はい、ひととおり残っています。広く浅く」

「広く浅く？」

「その……じつは、その彼とは本当に落ちついた関係で、タン々と、波乱がない代わりにもりあがりもないっていうか、苦しくないけど楽しくもないっていうか、とにかくずっと安定したテイ空飛行^{テイくうひこう}みたいな状態が続いていたんです。今から思えば、私、その安定感に依存していたのかもしれない。なので、裏切られたのはショックでも、それほど彼自体への未練はないっていうか……」

「なるほど」

「むしろ本性がわかってよかったです。二股をかけたあげくに平気で人を切りするような人ですし、あのまま一緒にいたら、もっと大事故に至っていた可能性もありますし」

「ええ、ええ、大いにありますね」

「ですから、もしも代替ペインの犯人が彼だとしたら、正直、なんていうか、ものたりない気がするんです。こんなに痛いのに、その原因があんな男なのかと……」

負け惜しみではなく、それは本心からの声だった。失って初めて大事なものに気づく、と人はよく言うけれど、失って初めて気づく大事じやないものもある。愛情ではなく安定のために自分をこまかしつづけたツケは自分にまわってくる。彼は私にそれを教えてくれた人だ。

が、しかし、もしもこの代替ペインがその「気づき」をコン底^dから覆し、私をさらなる悟りへ導くための試練であるならば——そこまで考えて、私は挫折した。そんなややこしいことを考えつづけるには歯が痛すぎる。

④「おっしやることはわかります。元彼は犯人に値しない、というわけですね」

短い黙考のあと、風間先生は言った。

「ともあれ、まずは確かめてみましょう。加原さん、今日一日、集中してその彼のことを考えてみてください。怒りでも悲しみでもくやしきでもいい、彼に対するご自身の感情と、とことん対峙^{たいじ}してください。もしも犯人が彼であるならば、明日には歯痛が弱まっているはずです」

私はそれを約束して電話を切った。

そして、その日一日、彼との記憶に浸った。もはやさっさと忘れるしかないと思っていた男を脳内ゴミ箱から引っぱりだし、ふつふつとよみがえる感情にしかと耳を傾けた。裏切りによる傷、くじかれたプライド。敗北感。徒労感。よりによってこんな時期に、という若干の逆恨み。消滅したほのぼの系^⑤未来像への心残り。ややもすれば一人になった自分の将来に対する漠然とした不安へ流されがちな思考を修正し、むりやり彼のことを考えつづけた。

ほぼ眠れずに迎えた翌朝、寝返りも打てない奥歯の痛みは微塵^{みじん}もやわらいでいなかった。

「やっぱり」

彼は犯人の器じゃなかったのだ。

よし、と私は小さくこぶしをにぎりしめた。^⑥

しかし――では、真犯人は何なのか。

(中略)

「どうかもう一度、じっくりと考えてみてください。どんな些細^{ささい}なことでも結構です。あなたが取るにたらないと思いきもうとしていることが、じつはそうではなかったりする。それが代替ヘインです。」

流し台の片隅にチラつく黄色に視線を定めたのは、全員犯人説を否定されたその夜のことだ。

その黄色はもう何日も前からそこにチラついていた。はるか以前からキッチンの構成要素の一部であつたかのように、ステンレスの台に溶けこんでいた。日々、幾度となく私の視界に入りこんでいたのを、意識から締めだして放っていたのだ。

しかし、この日にかぎってその黄色が妙に生々しく感じられ、私はそろりと歩みよった。

真つ二つに割れたかけらを手に取る。

右手と左手に一つずつ。

かすかな、しかし確かな痛みが、瞬間、胸骨の奥を駆けぬけた。

まさか――。

暗がりの中、息を殺して、私はその鋭利なかけらに見入りつづけた。

「まめぞらっ？」

風間歯科医院の患者はこの日も私だけだった。「二応、ポーズだけでも」と通された診察室で、形ばかり椅子に体をあずけた私に、二メートルのソーシャルディスタンスを置いた先から風間先生は困惑のまなざしを向けた。

「それは、豆の二種ですか」

「いいえ、お皿の一種です」

これくらいのも、と私は両手の指でタマネギ大の円^{かたど}を象った。

「小さなお皿です。お醤油^{しょうゆ}入れにしたり、取り皿にしたり、いろいろ使えて便利なんです。場所も取らないし、値段も安いし、なにより見た目がかわいいので、私、集めているんです。食事のたびに皿を変えただけで、なんとなく気分が上がるっていうか」

「なるほど」と、風間先生は表情をゆるめた。「日々の彩りですね」

「はい。上京して一人暮らしを始めた大学時代からこつこつ集めはじめて、今、百枚ちよつとかな。ながめているだけでも気持ちいくなこむんです」

陶器、磁器、漆。円形、多角形、扇形。花や野菜、動物の形を模したもの。素材も形もバラエティ豊かで、個々それぞれの味がある。皿の世界は奥深い。診療椅子の上で語ることではないと思いつつ、私は皿について熱く語った。

「とりわけ気に入っている何枚かは、すぐ取りだせる食器棚の最前列に重ねています。センターポジションです」

「お皿にも序列があるわけですね」

「はい。中でも不動のナンバーワンは、黄色い皿でした」

私は声を落とした。

「淡い、優しい黄色です。ホットケーキの上でとろけるバターみたいに。形はシンプルな円形ですけど、よく見ると、縁に沿ってぐるりとリーフ模様が彫りこまれているんです」

その皿と出会ったのは常滑^{とこなめ}の街だった。旅先での常として、新たな皿を求めてそぞろ歩いていた私は、北欧風のカラフルな常滑焼を扱う店の前で足を止めた。その狭い店内を映^はやす色彩の渦の中、たしかにぴかりと光っていたあの黄色い一枚との出会いは、まごう方なき運命だったと思いたい。

電撃的なひとめぼれ。自分だけの太陽を見つけたようなときめき。手に触れた瞬間、心にぽつと陽^ひが差した。

その光はその後も絶えることなく、私の地味な食卓をほがらかに照らしつづけてくれた。全体的に茶色くパツとしない料理も、黄色い皿を横に添えれば、一

気にぐんと華やいだ。冷めた料理だつてふたたび湯氣を立てる気がした。

直径十センチの小さな太陽。いつも私を温めてくれた。

だからこそ、私はその豆皿を多用しすぎないようにと自分を律していた。

「黄色い豆皿は本当に、本当に特別だったんです。いやなことがあつた日とか、気持ちがふさいでいるときとか、あの明るさを本当に自分が必要としているときだけ使つていいお皿」

ふうつと息をつき、私は言った。

「十年間、大事にしてきたそのお皿を、割つてしまいました」

風間先生の風^ないだ瞳に変化はなかった。話の展開を読んでいたのかもしれない。

「ぼうつとしていて、お皿を洗つているとき、うっかり割つてしまったんです。ショックで、へたりこんで、しばらく動けませんでした。割れたお皿も捨てられなくて、今も流しに置いたきりです」

でも、と私はマスクの下のくちびるを噛^かんだ。

「でも、なるべくそれを見ないようにもしていたんです。こんなことを引きずっちゃいけない、落ちこんじゃいけない、つて。こんなときに……世界中がとんでもないことになっているときに、豆皿一枚でよくよしているなんて、なんかおめでたいっていうか、不謹慎？ とにかく、おとなげないじゃないですか。だから、豆皿のことはなるべく考えないようにしていたんですけど……」

尻すぼみに声がとぎれた。続きをなかなか言えずにいると、風間先生が代わつて口にくれてくれた。

「あなたは豆皿を失つた痛みから目をそむけてきた。行き場を失つた痛みは代替。ペインとなつて歯を襲った。そうお考えなのですね」

私は頬^{ほお}を熱くした。

⑧「まさかとは思つたんです。だって、豆皿ですよ。物ですよ。でも昨日、夜遅くまで豆皿のことを考えていたら、今朝、心なしか奥歯の痛みがやわらいでいたんです」

風間先生^ぞの目が微笑^{ほほえ}んだ。

「おめでとうございます。ついに真犯人を突きとめましたね」

私は微笑みかえせなかった。

「でも、こんなことつてあるんでしょうか。交際相手を失うより、豆皿を失うほうがダメージが大きいなんて」

「僕も加原さんのお話を聞いて、元彼よりも、割れた豆皿を惜しく思いましたよ」

「でも……でも、しょせん豆皿は豆皿ですよ。しつこいようですけど、世界は今ひどい状況で、前代未聞の危機^{ひん}に瀕^{ひん}して……」

目を閉じ、私は思い起こす。日増しにふくれあがっていく各国の死者数。医療現場^{ひつぱく}の逼迫。観光業や外食産業の悲鳴。「マスクない」の合唱。

「こんなときに、豆皿一枚で、私は……」

「こんなときだからこそ、その豆皿一枚があなたには必要だったんじゃないですか」

この数日間、私がマスクを隔てず会話をした唯一の人である先生の言葉に、はたと目を開いた。

無影灯の下には万物の陰を吸いこむような笑顔があつた。

「いつ終わるとも知れない緊張の連続の中で、あなたはいつも以上に毎日のぬくもりを求めていたはずです。そんなときに太陽を失った。それは宇宙規模の喪失です。それだけあなたがそのお皿を大切にしていたことです。僕は素敵だと思ひます。素敵な犯人です」

素敵な犯人。すべてを肯定してくれるその一語に、肩からふつと力が抜けた。私を縛っていた何かがほつれる。滞っていた感情が流れだす。

「風間先生。私、豆皿のことで悲しんでもいいんですか」

「もちろんです。悲しんでください。思う存分、どっぷりと。その代替。ペインが消えるまで、心の痛みを痛みつくしてください」

「十分に悲しめば、痛みは消えますか」

「消えます。もうすでに消えはじめているはずです」

「あ……」

言われてみれば、今朝よりもさらに痛みが薄らいでいる気がする。今晚はまともなものが食べられるかもしれない。早くも食欲^{きど}さえ兆しはじめている自分の現金さに驚く。

「わかりました。やってみます。見苦しい未練のかぎりを尽くして、ジタバタ悲しみぬきます。」

*。ペイン…痛みや苦痛

（森 絵都『太陽』より）

問一、傍線部 a ～ d のカタカナと同じ漢字を使う熟語を、それぞれア～エの中から一つ選り記号で答えなさい。			
a	「セイ神」	（ア セイ庄	イ セイ格
b	「タンタ」	（ア タン任	イ タン検
c	「テイ空	（ア テイ速	イ テイ主
d	「コン底」	（ア コン抛	イ コン姻
		ウ コン惑	エ コン合

問二、傍線部「くぐ」の「の」のうち、文法的に異なるものを一つ選び記号で答えなさい。

問三、傍線部①「クラッシュ事故のようなもの」に使われている表現技法を次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 倒置法 イ 擬人法 ウ 隠喩法 エ 直喩法

問四、傍線部②「それは……大変なときに、大変な目に遭われましたね」とあるが、どのような時にどのような目に遭ったのか。次の文の空欄に当てはまる語句を①は五字、②は四字で本文中から抜き出さなさい。

（ ① ）が始まったところに、（ ② ）を失ったこと

問五、傍線部③「気づき」とあるがそれはどのようなことか。「くぐ」につながるように本文中から三十五字で抜き出し、始めと終わりの五字を答えなさい。

問六、傍線部④「元彼は犯人に値しない」とあるが、その理由として当てはまるものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 元彼との関係が今も安定しているため、元彼が痛みの原因だとは考えられなかったから。

イ 元彼に対する感情がそれほど強くないので、痛みの原因としては物足りないと感じたから。

ウ 元彼は他の女性と同棲しているため、物理的に痛みの原因になり得ないはずだから。

エ 元彼には怒りよりも感謝の気持ちが強く、痛みの原因としては不適切だと思ったから。

問七、傍線部⑤「未来」の熟語の構成をA群のア～カの中から一つ選び記号で答えなさい。また、同じ構成の熟語をB群のア～カの中から一つ選び記号で答えなさい。

A群 ア 同じような意味の漢字を重ねたもの イ 反対または対応の意味を表す漢字を重ねたもの

ウ 上の字が下の字を修飾しているもの エ 下の字が上の字の目的語・補語になっているもの

オ 主語と述語の関係にあるもの カ 上の字が下の字の意味を打ち消しているもの

B群 ア 寒冷 イ 高低 ウ 拍手 エ 日没 オ 無事 カ 曲線

問八、傍線部⑥「私は小さくくぐしをにぎりしめた」とあるが、この時の気持ちを表す言葉として当てはまるものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 悔しい イ 悲しい ウ うれしい エ 寂しい

問九、傍線部⑦「取るにたらない」とあるが、言葉の使い方として正しいものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア この料理は取るにたらないおいしさだ。 イ 彼の努力は取るにたらないほど素晴らしい。

ウ その噂は取るにたらないデマに過ぎない。 エ 取るにたらない賞を受け取り感動した。

問十、傍線部⑧「まさかとは思ったんです」とあるが、まさかと思ったのはなぜか簡潔に答えなさい。

三 次の各問いに答えなさい。

問一、（ ）に入る適切な言い方を、それぞれア～ウの中から一つ選び記号で答えなさい。

① 先生が（ ） 京都市の歴史を自由研究のテーマにしたいのですが、アドバイスをいただけれますか。

【 ア お生まれされた イ お生まれになった ウ お生まれになられた 】

② 実は、今度うちの父が京都マラソンに（ ） ことになったんです。

【 ア ご出場する イ 出場される ウ 出場する 】

③ 講師の方がわかりやすく（ ） ので、国際問題が身近に感じられるようになりました。

【 ア ご説明くださった イ ご説明くださられた ウ ご説明してください 】

問二、次の二語の関係を考えて、同じ関係のものを後のア～オの中からそれぞれ一つ選び記号で答えなさい。

① 往信…返信 ② 製造…販売 ③ 防寒…手袋

ア 方法…手段 イ 増大…減少 ウ 掃除…雑巾 エ 利益…利害 オ 立案…実行

問三、次のア～エの文の意味が通るように並び替えたとき、三番目に来る文を記号で答えなさい。

ア すると、これらの取り組みを通じて、地球の資源を守り、環境への負荷を減らすことができます。

イ まず、環境保護のためには、私たち一人ひとりが日常生活でできることを考える必要があります。

ウ 次に、リサイクルや再利用を積極的に行うことが重要です。

エ さらに、エネルギーの節約や再生可能エネルギーの利用を推進することも大切です。

問四、犬のモモがごはんを食べたのが夕方であることが明確に分かるよう、次の文に読点を一か所つけなさい。

犬のモモが夕方私が作ったごはんを食べた。